

訂正：江戸後期の辞書『永代節用無尽蔵』における藻類の和名と漢名

仲田 崇志

Takashi Nakada: Corrigendum: Japanese and kanji names found in a dictionary, *Eitai Setsuyo Mujinzo* (*Inexhaustible Eternal Word Collection for Everyday Use*), published in the early 19th century. Jpn. J. Phycol. (Sôru) 72: 29–30, March 10, 2024

仲田 (2021) では、天保 2 年版『永代節用無尽蔵』(以下『永代節用』; 河邊ら 天保 2) の藻類関連語彙を調べたが、いくつかの誤りが見つかったため訂正する。以下、原文に対する訂正箇所は太字かつ下線で示す。これらの修正は主要な議論・結論には影響しなかった。

藻類関連語彙の見落としに関わる訂正

図 1 に示した 5 語が見落とされていたため追加する。食服門の「あみみるちや／藍海松茶」は色名、草木門の「もくず／藻屑」は文字通り藻の屑で、同じく草木門の「ろくびさう／鹿尾草」は「ひじき」、「なんばんみる／石花菜」は「ところてんぐさ」、「しゃこさい／鷓鴣菜」は「まくり」の異名と考えられる。よって収録された藻類の種数は変わらない。

これらを表 1, 2 のように追加し、語彙数などを以下のように修正する。

・ English summary

p. 1, line 4–6: **Seventy** words (**11** from food-and-clothes and **59** from plant divisions) including **51** algal names (one from food-and-clothes and **48** from plant divisions) were recognized...

- ・「食服」門・「草木」門に見られる藻類関連の見出し語
 - p. 3, 左 22–右 5 行目: 天保 2 年版『永代節用』の「食服」門には確認出来た限り **11** の藻類関連語彙 (うち大見出し語 4, 小見出し語 7) が含まれた (中略)。このうち (中略)「みるちや／海松茶」, 「**あみみるちや／藍海松茶**」, 「すみるちや／素海松茶」は色の名前を…
 - p. 3, 右 8–18 行目: 「同様に「草木」門には **60** の藻類関連語彙 (うち大見出し語 **44**, 小見出し語 **16**) が認められた (図 4 および本訂正記事の図 1)。このうち (中略)「もくず／藻屑」の **9** 語は特定の藻類を指す語ではなく, (中略) 残る **51** 語は読み仮名が同じ **37** 語にまとめられ…
- ・現行の漢字名との異同
 - p. 6, 左 4–10 行目: 『永代節用』の漢名と田中・中村 (2004)・阿部ら (2012) の漢字名を比較してみると (表 2), 『永代節用』に固有の漢字表記が **32** 件 (中略) あった。この中から (中略)

表 1. 仲田 (2021) の表 2 への追加。天保 2 年版『永代節用無尽蔵』(河邊ら 天保 2) に収録された藻類名の読み仮名／漢名の列への追加を示す (その他の列に訂正はなかった)。追加は太字かつ下線で示した。

読み仮名／漢名 (あいうえお順)
しゃこさい／鷓鴣菜 (→まくり)
なんばんみる／石花菜 (→ところてんぐさ)
ろくびさう／鹿尾草 (→ひじき)

表 2. 仲田 (2021) の表 3 への追加。天保 2 年版『永代節用無尽蔵』(河邊ら 天保 2) における扱いと、明治期および現行の国語辞典における収録語の比較より、「ところてんぐさ」、「ひじき」、「まくり」に関する行を抜粋。追加は太字かつ下線で示した。文献の詳細は仲田 (2021) 参照。新明国, 『新明解国語辞典』。日国, 『日本国語大辞典』。大, 大見出し語。小, 小見出し語。○, 収録。×, 未収録。

読み仮名／現行和名	扱い	言海	新明国	広辞苑	大辞林	日国
ところてんぐさ／テングサ類	大	○	○	○	○	○
(こゝろぶと)	大	○	×	○	○	○
(なんばんみる)	小	×	×	×	×	×
ひじき／ヒジキ	大	○	○	○	○	○
(ろくびさう)	大	×	×	×	×	○
まくり／マクリ	大	○	○	○	○	○
(かいじんさう)	大	×	○	○	○	○
(しゃこさい)	大	×	×	×	×	×

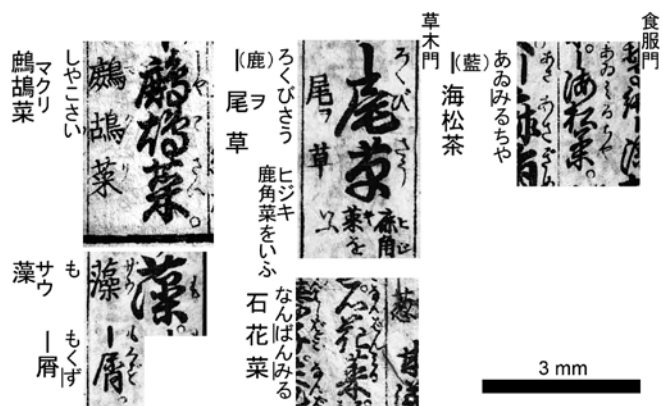


図 1. 天保 2 年版『永代節用無尽蔵』(河邊ら 天保 2) の食服門・草木門に収録された藻類関連語彙の追加 (「もくず」は参考)。それぞれ複写 (各右) およびその翻字 (各左) を示した。大見出し語の草書体漢字表記は翻字を省略; 変体仮名を通用仮名に改めた箇所は左傍線で表記。

些末な表記揺れを除くと、『永代節用』独自のものが **18** 件、『永代節用』にないものが 12 件あった。

・『永代節用』と現在の国語辞典の語彙比較

p. 8, 左 4–10 行目: 『永代節用』に収録された藻類を明治および現在の国語辞典で確認してみると(中略), 『日本国語大辞典』(約 50 万語収録)には 25 種類全て(語としては **92%**)が再録されていた。

漢字・仮名の誤読と誤字に関わる訂正

仲田(2021)の図 3, 4 の翻字に誤読・誤字が見つかったため, 表 3 に示す。

「胡」を「期」と誤読していたため, 『永代節用』から引用した「於期菜」を「於胡菜」に訂正する。これにより p. 6 右段「2.4. 誤字」の 1 段落目の意味合いがやや変わるが, 大筋に影響はない。

表 3. 仲田(2021)の図 3, 4 に示した翻字における誤読・誤字の訂正。図中の位置については, 複写と翻字をまとめて 1 列と数えた。追加は太字かつ下線で示した。

図番号と位置	誤	正	備考
図 3 右 1 列目	とりさかのり	とつさかのり	誤読
図 4 右 1 列目	ほだわら	ほだ <u>は</u> ら	誤読
同上	於期菜	於 <u>胡</u> 菜	誤読
図 4 右 2 列目	かわも	か <u>は</u> も	誤読
同上	かわのり	か <u>は</u> のり	誤読
同上	ほだわら	ほだ <u>は</u> ら	誤読
図 4 右 5 列目	(紫)藻	(<u>水</u>)藻	誤字
図 4 右 6 列目	ひしめ共	ひらめ共	誤読

また平仮名の「つ」を「り」と, 変体仮名の「は」(字母「八」)を「わ」と, 「ら」を「し」と, それぞれ誤読していた。ただし「ほだはら」については片仮名で「ホダワラ」と表記がある。

「ひろめ」の注釈は「ひしめ」/「ひゝめ」とも読めたが, 『都会節用百科通』(高・鎌寛政 13; 『永代節用』の参照元か; 仲田未発表)に「ひらめ/昆布/コンブ」とあった。これに伴って「2.10. 『こんぶ・えびすめ・ひろめ/昆布』」の 2 段落目の記述を以下のように訂正する。

p. 7, 左 41–43 行目: なお『永代節用』では「ひろめ/昆布」に対して「ひらめ共(トモ)」と異名が示されているが, この異名は『都会節用百科通』(高・鎌寛政 13)に見られる…

文献刊行年の訂正

仲田(2021)では『永代節用』の刊行年(天保 2 年。グレゴリオ暦 1831 年 2 月 13 日から)を 1831 年としたが, 同書の巻末刊記に「天保二年辛卯晩冬」とあり, 同年晩冬(陰暦 12 月)には既にグレゴリオ暦の 1832 年になっていたため訂正する。

引用文献

- 河邊桑揚(編)・堀源入(遺草)・堀原甫(再編)天保 2. 永代節用無尽蔵. 須原屋茂兵衛, 江戸; 風月庄左衛門・山本長兵衛・小川多左衛門ほか, 京都.
- 高蘆屋(草)・鎌松荷(増刪)寛政 13. 都会節用百家通. 大野木市兵衛・松村九兵衛・上田宇兵衛・高橋平助・柳原喜兵衛・鳥飼市左衛門, 浪華.
- 仲田崇志 2021. 江戸後期の辞書『永代節用無尽蔵』における藻類の和名と漢名. 藻類 69: 1–9.

(北海道大学)